

東熊会会員による「里帰り講話」概要

日時 平成29年9月7日(木) 11:00~12:00
場所 天草市立五和中学校
対象 同校生徒、教職員等
講師 ハリウッド大学院大学特任教授 上妻 博明 氏
参加者 240人(生徒204人、教職員等36人)
テーマ 働くとは~これからの時代に求められること~



【講話概要】

- 「職業」とはなにか。辞典でひくと、「生計を維持するために日常している仕事」とか「生活を支える手段としての仕事」と書いてある。みなさんは学校を卒業すると、仕事をするによって、職業に就くことによって、日常生活を送ることになる。
- 憲法には日本の約束事が書かれており、その中には、「すべて国民は勤労の権利を有し、義務を負う」と書いてある。つまり働くことが人間の権利と義務になっている。働くことによってみなさんは生活をしていかねばならない。一方で、道路を作ったりするために税金を納めなければならない。働くことは、税金を払ってもらうこと的前提にもなっている。
- お金をたくさんもっていれば働かなくていいと考えている人もいるようだが、そういう人は、お金をもらうためだけに働くと思っているのだろう。人の役に立つことや、自己実現することや、自分の能力を世界の人に認めてもらうことなどを考えたら、働くことにお金以外の意義を感じるようになる。
- みなさんが生きていくこれからの社会で、どういった働き方をしていくか。今のみなさんを取り巻く環境だが、日本は人口減少と高齢化社会がすすんでいく。2040年には日本の人口は1617万人減少する。天草市くらいの大きさの町が194個、消えてしまう。さらに、65歳以上の割合は12%増加するのに対し、15~64歳は9.4%減少する。東京に住んでいる自分からすると、人が減ることで、朝の通勤ラッシュもなくなるし、住みやすくなる気がしますが、みなさんの考えは？
- 地球の大きさは決まっているから、人口が増えすぎるのは困る。人口が減ると、経済の元気がなくなる。経済は一定の元気を保たなければ、バランスがくずれる。一定を保つためには人の数が必要だが、日本の人口の減り方は異常。江戸時代3000万人だった日本の人口は今、1億2000万人。これから、人口が3000万人に減ってしまって、江戸時代の暮らしに戻れるかという、電気とか車とかを知っている今の私たちには不可能なこと。
- 今のみなさんを取り巻く環境のもう一つは、「グローバル化」のおわり。グローバルとは地球的や世界的という意味。17世紀には物資が広がり、18世紀には農業革命が起き、19世紀にはエネルギーの生産消費が始まり、20世紀にそれらを奪い合う戦争が起きた。そして21世紀は情報社会。これ以上、世界的に広がるものはない。
- 物資、エネルギー、情報ときて、これからはライフが重要視される時代。みなさんが働く時代

は、グローバルではなく、ローカルの時代となる。高齢化に伴う医療・福祉、様々な対人サービス、自然エネルギーや環境関連分野、文化や街づくり、農業などのローカルな経済が中心の社会となる。

○働くのに大事なことは、ノーベル物理学賞を受賞した小柴教授の言葉を借りて言うと、総合力をあげること。総合力=人間力=受動的な力×能動的な力。受動的な力は、今みなさんが学校で勉強しているような筆記試験で測られている力のことで、能動的な力は、自分から何をやるのか、どうやってやるのか考える力のこと。どちらも大事。

○小学校から高校までは、全て答えがある。大学では少しだけ答えがない問題がでてくる。大学院は、答えのない問題にチャレンジして答えを探し出す。一生をかけて解けない問題もあり、結局解けないままおわることもある。学者とはそういうもの。社会では、答えがない問題も多い。そこで必要なのは、受動的な力と能動的な力すなわち総合力が必要である。みなさんはいずれ、社会に出ていくのだから、今のうちから、受動的な力と能動的な力を養うことを意識するのが大事。

○「ゆでガエルになるな、井の中の蛙になるな」

「将来の夢に向かって努力する」

「総合力をつけよう」

「Stay hungry.Stay foolish」

こういった心をもって、みなさんが社会で活躍することを期待している。